

がんじょうじ にしつか の こし
願成寺西墳之越51号墳

51号墳は、古墳群の実態を知るために、平成8～9年に隣り合う52号墳と共に発掘調査を行ったものです。

直径18m、2段築成の円墳で、各段には石垣のような外護列石が施されていました。

埋葬施設は全長11.46mの横



墳丘には石が石垣のように積まれていた



黒線の位置に棺がおかれていた

穴式石室で、内部が崩れていたためか盗掘にあっていませんでした。玄室内部は最後の埋葬当時の様子をとどめており、最低3回、埋葬が



行われたことが判明しました。

最初の埋葬は7世紀後半で、古墳が造られたのもこの頃と思われます。2回目は8世紀前半頃で、使用された棺の痕跡が確認されました。横穴式石室内で木製棺の痕跡を確認したのは、

岐阜県下で初めてのことで、非常に貴重な事例といえます。この棺は長さ1.8m、幅55cmほどで、鉄釘で要所をとめたものでした。釘についた木片を分析した結果、棺の材はコウヤマキであることも判明しました。棺の両



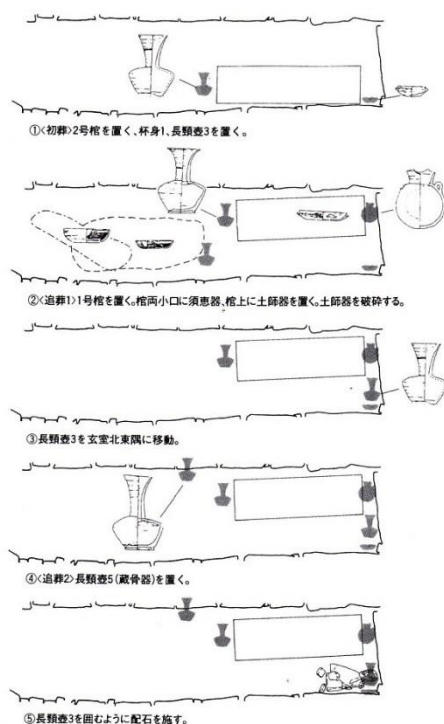
端には須恵器が1点ずつ置かれ、まわりでは土師器を砕く儀式が行われていたようです。

最後（3回目）の埋葬は、須恵器壺の中に火葬骨を納めたもので、2回目の埋葬からほどなく行われています。このように8世紀の前半頃には、新来の火葬による葬法と、旧来の古墳に

よる葬法とが入り混ざった状態であったと思われます。

51号墳のこのような事例は、この地域の古墳の終末を考えるうえで非常に重要なものです。

池田町教育委員会「岐阜県史跡願成寺西墳之越古墳群51・52号墳発掘調査報告書」1999年



51号墳埋葬順序推定復元図